

産業建設常任委員会 意見交換会報告

8月1日開催の白山市建築設計監理協会との意見交換会について、その概要を報告します。

当日は白山市建築設計監理協会の会長をはじめ、9名の役員及び会員の皆様が出席され、建築設計の現状と課題について意見交換をしました。

白山市建築設計監理協会は、白山市内に在住する建築設計と工事管理業務を専業としている建築士事務所15社で構成されています。

それでは、今回の意見交換会で出された主な意見を述べさせていただきます。

1点目、白山市の建築設計の入札については、市外の設計事務所に指名されることが多く、どのような基準で指名しているのかわからないので、資格や基準等を明確にしていただき、市内事業所として市の発展に寄与するためにも、より多くの案件に指名されるよう人材育成等を推進したいと意見があり、委員からは担当部署との入札制度に関する意見交換等の開催などの提案がありました。

2点目、市有建築物の定期点検において、非常用照明の内蔵電池が劣化して点灯しないことや排煙設備が作動しない状況が見受けられ、中には前回の点検で指摘したにもかかわらず改善されていない箇所もあるとのことでした。利用者の安全を守る上で優先的に改修を進める必要があり、早急に対処し、建築物を所管する担当課への安全意識の啓発に努めてほしいとの意見がありました。

3点目、市内の避難施設について、ほとんどの2次避難施設においては耐震化をしていますが、集落センター等の1次避難施設においては、建設年度などによる劣化が考えられるので、災害時に適切な対応をとれるよう、町内会などに耐震診断を促すよう提案がありました。

4点目、少子高齢社会が進む中で、まちづくりや人口減少に対応してい

くため、空き家等を改修、再利用し、都会生活者の移住などを図る拠点づくりを進め、提案もしていきたいといった意見がありました。

そのほか、当協会は白山市と災害協定を締結していることもあり、災害に強いまちづくり実現のため、市内住宅の耐震改修を促進して、住まいのよりよい環境整備に向けて連携していきたいとの意見などもありました。

今回の意見交換会を通じ、建築物や設備の定期点検や耐震診断などの結果を踏まえて、災害に強いまちづくりを推進することが、今後ますます重要になっていくと考えます。

以上で意見交換会の報告を終わります。